

日本の昔話 — 17

日本放送出版協会

浪速の昔話

稲田浩二監修

笠井典子編

監修者

稲田 浩二

1925年岡山市生まれ。広島文理科大学を卒業し、現在、
京都女子大学文学部教授。
主著・主論文に『昔話は生きている』『説話 文学必携』
(共著)「日本靈異記話型の一考察」「今昔物語集の 説話
性に関する試論」などがある。

編者

笠井 典子

1948年神戸市生まれ。京都市在住。昔話の研究と絵本の
制作にしている。

日本の昔話17

<検印廃止>

浪速の昔話

定価 1800 円

昭和52年 5 月20日 第1刷発行

監修者 稲田 浩二

編者 笠井 典子

発行者 浅沼 博

印刷 凸版印刷

製本 石津製本

発行所 日本放送出版協会

東京都渋谷区宇田川町 41-1

郵便番号150 振替東京1-49701

©1977 Koji Inada
Noriko Kasai

落丁本・乱丁本はお取替いたします

0339-015017-6023

敬畏へのもの長きちのい

稲田 浩二

遠いわれらの祖先から口づたえに伝えられてきた日本昔話の現状は、たとえていえば、目に見えない地下水のようなものです。それは、あわただしい情報と速度に飲みこまれた人々にとっては多分だんの生活には無縁であり、ときおりふとなつかしむ過ぎ去った日々、ふるさとのようなものでありましょう。けれども、その地下水は、いまでもつましく生きている、心ある人々がその気になつてたずねるならば、やさしくことばをかけ、耳を傾けるならば、意外にみずみずしいことば——昔語りが地上にわき出るものなのです。わたしどもは、ここに一九七〇年代の一つの証言として、日本の各地にわたるこの種の実験をありのままにみなさまにご報告いたしたいと思います。

昭和の初年、柳田国男が昔話を学問の対象とした当時、すでに昔話は生活の表面から姿をかくしかけていたようです。柳田国男はこれを愛惜し、一日も早い調査をと人々に訴えています。それから半世紀たったいま、昔話はいっそう地表から深くもぐり、代ってブラウン管や活字の「民話」が

人々の目をうばっております。それにいちいち目くらをたてるというのではありません。新しい皮袋に盛られて、「民話」はどこへ向けていくのか、多少の不安をもって見守りたい、とわたしなどは思っております。ただ、これまでこれほど一律に昔話が扱われたことはなかったので、昔話の世界も年とともに従来なかった変化を蒙るのではないかと思えます。いや多分それはもうある程度まで進行しているにちがいありません。東北に伝承してきたはずの昔話が、ブラウン管や活字をへてこつ然として山陽地方に現われてくるということです。したがって、昔話が村や町、家々に伝わるという土着的・風土的な本質は、よほど注意深く扱わないと裏切られることになります。

「日本の昔話」はこの意味でかたくなに、村々家々に口づたえされてきた昔話に限って収めることにしました。編集にたずさわる皆さんはいちいち語り手のところにおもむいて、一つ一つの話を聞き出し、録音テープに収め、これをそのまま文字に移すことにしました。それはぶこつだけれど、ありのままの口づたえの姿を最もよくとどめるものだと思うからです。したがってこれは、読者のかたにそれほど口ざわりがよくない食べものかもしれません。土から掘り出したままの、いわば料理の素材だからです。ただそれをじっくり噛みしめていただけるなら、現代日本のつましい素顔の一つに出会えるはずです。テレビや書物でなめきれない、日本人の飾らないものの見方、表現、よろこびとなげき……総じて日本人の人生のありのままがこめられています。

どうしたわけか、これらのことばは、同じ棟の下に住んでいる家族でさえも耳にすることがほと

んじゃないものです。語り手ご自身も多くの人が何十年ぶりに語ったという種類のものです。したがって、大部分の話がたまたまよい聞き手の編集者に出会って、水を得た魚のようにふき出して世に出たものです。いまわたしどもは、これを命長きものへのいとおしみと畏敬の念をもって世にのけたいと思います。これがよい読者をえて、新しい明日をうんでいくかとなれば、語り手とわたしどもの望外の幸せであります。

一九七七年四月

はしがき

浪速の昔話を編むということになって、ああえらいことやと思いました。なんといっても大阪は広いし、人も多いし、昔話を聞けるようなゆったりとした雰囲気もなさそうですもの。どうしたものかと思案して何か所かお訪ねしました。狐にだまされた話は聞けるものの、昔話らしい昔話はいっこうに聞けません。浪速—大阪—というと、私の祖母は浪速のだ真中、天満てんまの生まれです。祖母は幼い頃の私に、「こんこん遊び」——両手の指で二つの狐を作り、へんどのおばさん火いおくれんか／この山越えてこの橋渡って／火はこここじやと歌う遊び——をしてくれたり、寝る時は毎晩、「おんちよろちよろ」と「千々三本」の昔話を語ってくれたものです。「おんちよろちよろ、またちよろちよろ、穴のぞきそわか」のとなえ文句と「千々三本、千々三本」のリズムは私の心に残ります。そんな思い出もちょっぴりなつかしく、もう七、八年前になるでしょうか、祖母の昔話を二、三話録音していました。けれども、二話や三話では浪速の昔話というわけにはいきません。

「おばあちゃん。一番好きな話はなに？」

「そうやねえ、三つぐらいの頃からおかあさんがよう聞かせてくれはった『朱膳ぶっぶ』と『おんちよろちよろ』。お嫁に来てからねんねあーちゃん（姑）が教えてくれはった『千々三本』やろか

な。それから、小学校の昔話の会では、先生が『継子とほん子』の昔話してやって、皆泣きながら聞いたもんやわ」

ということとで、まずは好きな話、印象深い話からテープに収め、それからぼつぼつということになりました。はじめの頃は、

「あやち（中途のところ）忘れてもて思い出されへん」

と言っていました。なんとかほつりほつり思い出してくれました。一九七二年から一九七六年の間、少しずつ聞いたでしょうか。最初のうちは月に何度か顔を合わせるたびに、昔話は聞けなくても、祖母の幼い頃の生活や、遊びや子守りうたを教えてもらう時間を、日に数時間もちました。そんなこんなしているうちに、週末顔を見るのを待っていたかのように、

「朝早う目がさめてしもて、じっと考えてたら思い出したよ」

とか言って、五話、六話と積み重なっていきました。そんなことで、ここに集まった昔話はほとんど祖母の語った昔話になってしまいました。ほぼ、聞いた年代の順に配列し、誰から聞いたかを「伝承」として後注につけてみました。

なお、浪速周辺の伝承風土を教えていただくために、都市科学研究所の依頼により一九七二年から一九七三年におとずれました、兵庫県多紀郡篠山地域と氷上郡の昔話を加えさせていただきました。これはこの企画を援助されました都市科学研究所所長米田豊昭氏、現地でいろいろお世話くだ

さいました篠山町役場中山正二氏、および酒井栄氏、酒井藤江氏、酒井まさえ氏ら多くの語り手の方々のお力によるものです。また、語り手を御紹介くださいました佐藤虎男先生、岡節三先生御夫妻、中村美佐子氏、資料を御提供くださった三原幸久先生に心から御礼申しあげます。ありがとうございます。

一九七七年四月

笠井典子

凡 例

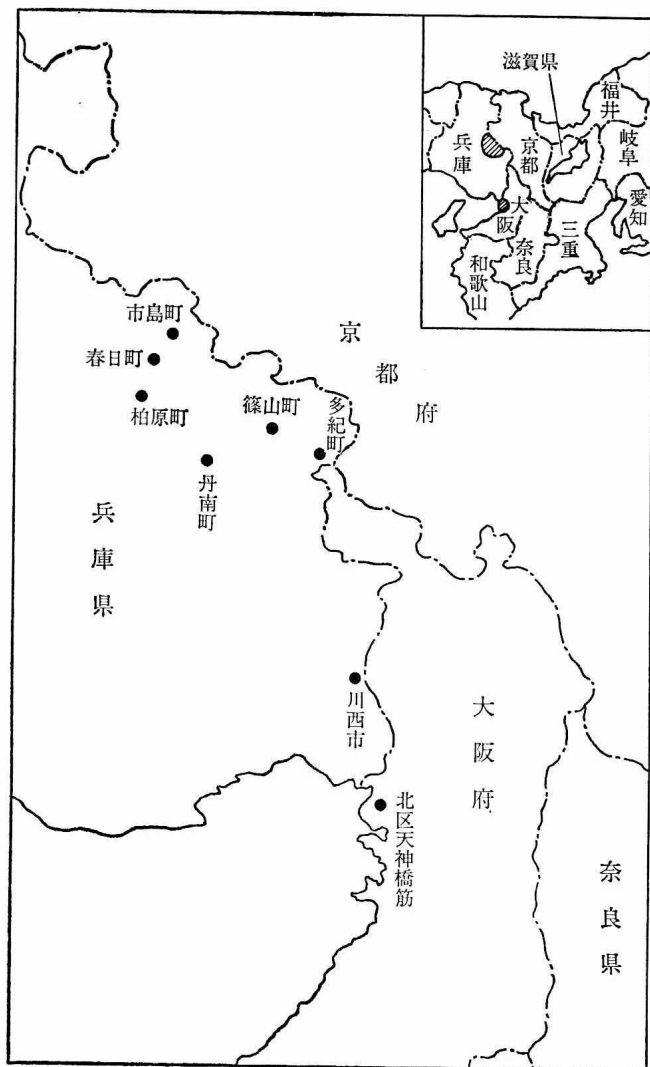
(1) 本集一二四話は、一九七二年から一九七六年の間に採訪し録音したテープから翻字し、その中から選んだものです。

(2) 本文の題は、語り手または編者がつけたものです。

(3) それぞれの本文の後に『日本昔話名彙』（柳田国男監修・日本放送協会編、日本放送出版協会刊）の話型を示しました。また『名彙』になくて『日本昔話集成』（関敬吾著、角川書店刊）にある時は、その話型を示しました。

(4) それぞれの本文の後に、その話の語り手の住所と氏名をしるしました。

(5) 浪速については、ほぼ語り手が聞いた順に配列し、誰から聞いたかを〈伝承〉として付記しました。



目次

いのち長きものへの畏敬 1

はしがき 5

凡例 8

地図 9

昔話

浪速

おんちよろちよろ 22

旅学問 24

卵とたどん 26

クワーン、クワン 27

茶びんと土びん 30

これでもか狸 31

だんじり吉兵衛	32
ふいご狸	34
風呂入れ狐	35
はれやかでよからう	36
蛇婿入り	38
がたろとおがら	39
がたろ	45
高野弘法大師	47
かちかち山	48
姥捨て山	52
お蚕さん	53
藁すべ一本	55
がたろの恩返し	64
夕立いりまへんか	68
狐の嫁入り	69
見るなの座敷	71
狸 ねこ の芝居見物	78

餓鬼ぞう……………	80
長柄の人柱 ながら ……………	80
いわしの頭も信心から……………	82
でこまわし……………	84
おにぎりコロコロ……………	85
だし汁……………	88
たくわん持て……………	90
鬼の楽土……………	91
嫁が見たら蛙になれよ……………	94
平林……………	97
鬼と相撲……………	99
人だま……………	101
笠地藏さん……………	102
縁結び……………	103
蛇池……………	104
継子と鏡……………	109
嫁の里帰り……………	110

嫁と姑……………	111
しのだの狐……………	112
柿になった太郎……………	114
婆汁うまいか……………	118
本子と継子……………	120
鼠の婿もらい……………	121
猿と蟹……………	123
舌切り雀……………	127
瓜子……………	132
願いの箱……………	136
狼……………	141
豆がら太鼓……………	143
飴買い幽霊……………	145
鬼子母神さん ^{きしぼじん} ……………	146
肉つき面……………	147
宝手拭い……………	148
水蜘蛛 ^{みづぐも} ……………	150